



アペルト08 なな からげ 七搦綾乃

2018年4月28日(土)～
2018年9月24日(月・祝)

若手作家の個展シリーズ「アペルト」。
干からびたバナナの茎、乾燥した輪切りのパイナップル…、
ふだん見慣れたものが枯れて朽ち、形を変えていく姿を捉えた木彫作品

展覧会名	アペルト08 <small>なな からげ</small> 七搦綾乃
会期	2018年4月28日(土) - 9月24日(月・祝)
開場時間	10:00～18:00(金・土曜日は20:00まで)
休場日	毎週月曜日(ただし4月30日、7月16日、8月13日、9月17日、9月24日は開場)、 7月17日(火)、9月18日(火)
会場	金沢21世紀美術館 長期インсталレーションルーム
料金	無料
お問合せ	金沢21世紀美術館 TEL076-220-2800
主催	金沢21世紀美術館[公益財団法人金沢芸術創造財団]

本資料に関するお問合せ

金沢21世紀美術館
事業担当: 山下樹里 広報担当: 石川聡子、落合博晃
〒920-8509 金沢市広坂1-2-1
TEL 076-220-2814 FAX 076-220-2802
<http://www.kanazawa21.jp> E-mail: press@kanazawa21.jp



展覧会について

七瀬綾乃（1987-）は山や森などの雄大な自然や、虹や霧などのはかなく消えていく自然現象をテーマとし、そこに独自の解釈や見立てを交えて木彫作品にします。本展で出品される、「rainbows edge」のシリーズでは、乾燥させたバナナの柄など、干からびた植物の形態と、布をかぶった自身の姿を合体させています。乾燥してよじれた植物のパーツと滑らかに仕上げられた布（身体）の部分が合体した様子は、若さと老いが同居しているような、もしくは布の中に奇妙な生物が隠れているような不穏な印象を与える一方で、仏像や神像のような静ひつさや、見てはいけないものを見てしまったような畏怖をも感じさせます。

みずみずしい生物が、年寄り、枯れて、乾燥し、ゆっくりと形を変えていく、その変化の中に美しさを見いだす七瀬の視線は、それらを忌避しがちな現代社会に生きる我々の価値観を大きく揺さぶることでしょう。



《rainbows edge I》2015
 樟 / 125×75×30cm
 撮影：加藤健

展覧会の特徴

一木彫で作られた有機体を思わせる作品群

例えば鹿やきりんなどの偶蹄目ぐうていもくを思わせる足の上に無造作に布を掛けたような木彫。七瀬の作品には、一本の木から生み出された何かの生物のようなモチーフが繰り返し登場します。そこからは得体の知れない不気味さや居心地の悪さ、畏怖の思いのような感情が沸き起こります。今回の展覧会ではこうした作品を2点のほか、小品やドロイングもあわせて展示します。

微細な生命力を持つ自然物が作品のモチーフ

七瀬のアトリエには、多数の乾燥させた野菜や果物、鳥の骨や貝殻などが並んでいます。バナナの茎やしいたけ、輪切りのパイナップル、魚のひれ…。アトリエにあるそれらはカラカラに乾燥し、しわがで、縮み、ねじれ、私たちが見慣れた形とはまるで違う形状になっていますが、ごく僅かな生命力が感じられます。彼女はこれらをモチーフにし、時に虹や太陽に見立てたり、人物像と組み合わせ、新たな生命体を思わせるような作品を作り出します。



《Non sine sole iris. (太陽無くして虹は無し) II》2016
機 / 4.5×4.5×1.2cm

活躍目覚ましい若手注目作家

2016年に第10回資生堂art egg賞を、また2017年にはTokyo Midtown Awardで準グランプリを受賞するなど、七瀬は若手の登竜門とされる展覧会で近年数多く評価されています。今回の個展では彼女の代表作と呼べる作品や、個展のために制作された最新作などを展示し、その表現に迫ります。



《rainbows edge I》2015
機 / 125×75×30cm



《rainbows edge I (ドローイング)》2016
インク、鉛筆、アクリル絵の具・紙 / 38×27cm

作家プロフィール

七瀬綾乃

Ayano NAKARAGE

1987年鹿児島県生まれ、2011年広島市立大学芸術学研究所彫刻専攻修了、広島県広島市在住。

主な展覧会に「BankART Life V Under 35 / 2017 七瀬綾乃展」(BankART Studio NYK、横浜 / 2017年)、「第10回shiseido art egg 七瀬綾乃展」(資生堂ギャラリー、東京 / 2016年)、「対馬アートファンタジア2016」(元対馬市立久田小学校内院分校、長崎 / 2016年)、「Children see, children do.」(広島芸術センター、広島 / 2012年)など。主な受賞にTokyo Midtown Award 2017準グランプリ(2017年)、第10回資生堂art egg賞(2016年)、トキョーワンダーウォール公募2014入選(2014年)など。



**「アペルト」
シリーズとは**

「アペルト」は、若手作家を中心に個展形式で紹介する展覧会のシリーズです。

金沢21世紀美術館は世界の「現在」とともに生きる美術館として、今まさに起こりつつある新しい動向に目を向けています。作家とキュレーターが作品発表の機会を共に創出し、未来の創造への橋渡しをします。

国籍や表現方法を問わず、これまで美術館での個展や主要なグループ展への参加経験は少ないが、個展開催に十分な制作意欲を持ち、アペルト実施以後のさらなる飛躍が期待できる作家を紹介していくものです。

※「アペルト (aperto)」は、イタリア語で『開くこと』の意味。

関連プログラム**アーティスト・トーク「アペルト08 七搦綾乃」**

七搦綾乃が作品の前で自身の作品と制作活動について語ります。

日時：2018年4月28日(土) 18:00～19:00

場所：長期インスタレーションルーム

料金：無料

広報用画像

画像1～5を広報用にご提供いたします。ご希望の方は下記をお読みの上、広報室へお申し込みください。

画像お申し込みフォーム ▶ https://www.kanazawa21.jp/form/press_image/

[使用条件]

※トリミングをご遠慮ください。作品が切れたりキャプション等の文字が画像にかぶったりしないよう、レイアウトにご配慮ください。

※情報確認のため、お手数ですが校正紙を広報室へお送りください。

※アーカイブのため、後日、掲載誌(紙)、URL、番組収録のDVD、CDなどをお送りください。以上、ご理解・ご協力のほど、何とぞよろしくお願いいたします。